

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	都市河川の古写真を素材とした環境情報の抽出とデジタル・アーカイブの開発
------	-------------------------------------

研究代表者

氏名 吉富友恭	所属 環境教育研究センター	職名 准教授
------------	------------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）

河川の環境保全の推進には市民の理解と協働が不可欠であり、その実現には河川の知識や情報を“見える化”して人々に提供することが求められる。写真には過去の貴重な環境情報が視覚的に残されているが、経年による滅失や散逸、撮影技術や記録媒体の変化により、その多くが消えつつある。昨今そのような状況から、古写真のデジタル・アーカイブ化が急がれている。

本研究では、人々の日常生活との関わりが深く多くの側面から教育資源としてのポテンシャルを有する都市河川を対象として、消えつつある古写真を素材としたデジタル・アーカイブの開発を目的とした調査を行う。

そのプロセスでは写真に記録されている当時の環境情報の抽出を試み、対象流域の学校や博物館における環境学習や、自然再生における情報共有や合意形成の場面における活用の視点を見出すことをねらいとした。

今年度は河川改修の事例がみられる標津川、上西郷川を訪問し、古写真の収集や活用の方法について調査した。また、自然再生が計画されている「野川」や「善福寺川」を主対象とした古写真の収集を始めた。

河川は自然科学だけでなく人々の生活や地域の文化との関わりも深く、学校教育においては多くの科目に関連する発展性のある題材であり、過去の記録を含む古写真は重要な教材となりうることを示された。

また近年行われた河川の自然再生に関する取組みにおいては、古写真が自然再生のイメージの共有や、現場の貴重な環境情報の視覚化に役立っていることが示された。

予算の減額のため、古写真のデジタル化、教材化については、準備（セットアップの一部の動作確認）までの実施となった。

本経費による知見は、過去に実施した関連研究の論文採録また、次年度からの科研費の採録に繋がった。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

吉富友恭・方華（2014）水環境のアーカイブ教材の開発を目的とした古写真からの情報の抽出．日本教育工学会誌／日本教育工学雑誌Vol.38 Suppl. 89-92（2014年度以前のデータを主に扱った論文であるが、執筆において本経費による研究の知見が採録に役立った。）